



## <フィリピン・リサーチレポート>

情報提供用資料

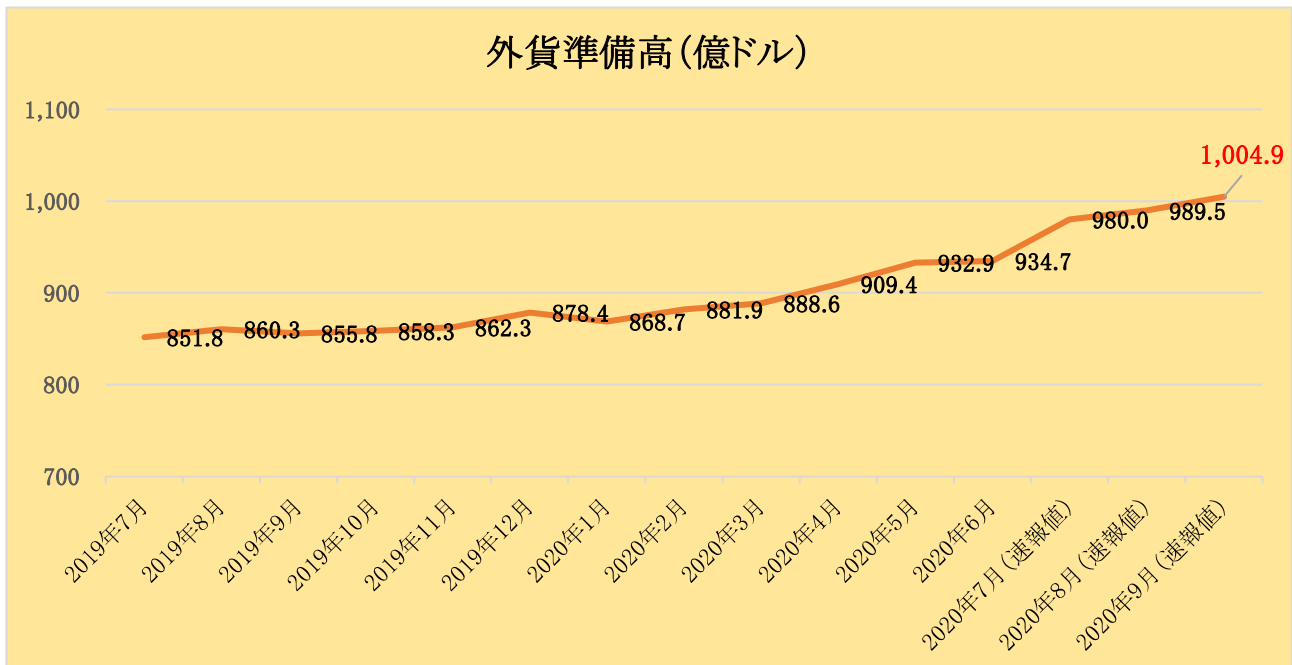
2020年10月19日

# フィリピンの9月末の外貨準備高 1,000億ドル超え

フィリピン中央銀行の発表によれば、外貨準備高(GIR、速報値)が2020年9月末時点で1,005億ドル(約10.6兆円)となった。前月末比+15.4億ドルで、8カ月連続増加となり過去最高を更新。

内訳を見ると、海外投資が845億米ドルと全体の約84%を占め最大。金保有額が116億ドル、外国為替が25億ドル、国際通貨基金(IMF)の特別引出権(SDR)が12億ドルなどと続いた。

保有する金の価格上昇や中央政府の外貨預金の増加、中銀の海外投資による収益が増加の原因。同国の外貨準備高は、モノ・サービス輸入などの10カ月分、短期対外債務(元本ベースの短期負債)の9.2倍に相当しており、十分な流動性を確保している。



<出所:フィリピン中央銀行(BSP)>

以上